

主題：神の建造する働き

メッセージ 5

幕屋の召会生活から宮の召会生活へ主と共に前進する

聖書：エゼキエル 43:10-12. ヨハネ 14:23. ピリピ 3:12-14.

イザヤ 66:1-2. 57:15. エペソ 2:21-22

- I. ハバククという名の意味（「抱擁する」あるいは「しがみつく」）は、神がキリストの中で人と成ったのは、わたしたちに抱擁し、わたしたちを得て、それによってわたしたちが彼にしがみつき、彼を得るためであったということを啓示しています。キリストがわたしたちを得たのは、わたしたちが彼を得て、それによって彼がわたしたちの中へと建造され、わたしたちが彼の中へと建造されて、団体の神・人、新しい人、生ける神の宮また家としての召会、神と人の相互の住まいとなることができるためでした——ハバクク1:1. 2:2, 4後半. ピリピ3:12-14. 参照、創41:51-52。
- II. 神の民の働き、行為、パースンは、神の様式と模範にしたがって、神の家としての召会に符合していなければなりません——エゼキエル43:10-12：
- A. 神の建造は手順を経た三一の神がご自身をわたしたちの中へと建造し込むことであるので、わたしたちは召会生活の中で、成就された聖徒たちによって成就される必要があります。彼らは造り変える霊と協力して、三一の神の属性をもって他の人を成就して、彼らを造り変えます——I コリント 3:9, 12, 16-17. 雅歌 1:10-11. エペソ 4:11-12. ヨハネ 14:23。
- B. 神の家は霊的なものであるので、わたしたちはその霊で満たされ、その霊によって生き、その霊によって歩き、その霊によって仕え、霊にしたがって歩き、わたしたちの霊の中で礼拝し、わたしたちの霊の中で仕え、その霊をあふれ流してその霊を供給する人でなければなりません——I ペテロ 2:5. エペソ 5:18. ガラテヤ 5:16, 25. ピリピ 3:3. ローマ 8:4. ヨハネ 4:24. ローマ 1:9. ヨハネ 7:37-39. II コリント 3:6. ヨハネ 6:63. イザヤ 66:1-2. 57:15。
- C. 神の家は神の心の願いであるので、わたしたちは神の友であるだけでなく、神の仲間にもなり、彼と最も個人的で親密な接触を持ち、彼によって用いられて、彼の事業を地上で遂行しなければなりません——ヨハネ 2:17-22. ヤコブ 2:23. 出 33:11。
- III. 幕屋と宮は召会の二つの面を予表しています：
- A. 列王紀上第 8 章 1 節から 11 節は、幕屋と宮が合併されたことを見せています。幕屋は可動式の前身であって荒野の行程を行きましたが、宮は予表における神の建造の究極的完成でした。
- B. 幕屋の拡大としての宮は、召会が強化され安定することを表徴しており、宮の中の器具が更新され拡大したことは、聖徒たちのキリストの経験が更新され拡大することを表徴しています：
1. 宮の寸法と宮の中の至聖所の寸法は、幕屋のそれらの寸法の二倍でした。契約の箱は例外でしたが、器具と調度品の大きさと数が大いに拡大しました——列王上 6:2, 20. 歴代下 4:1-8. 参照、出 26:3, 16, 18, 22-24, 33。

2. この事が示しているのは、キリストご自身（契約の箱によって表徴される）は拡大することができないが、わたしたちのキリストのすべての豊富に対する経験（宮とその器具と調度品によって表徴される）は大いに増し加わり拡大して、彼の拡大された表現に符合すべきであるということです——エペソ 3:8, 14-19. ピリピ 3:7-14。
- C. 幕屋が予表しているのは、地上における神の召会、あるいは各地方にある彼の召会です。宮が表徴しているのは、キリストのからだの実際としての召会です。地方召会は尊い手続きであって、わたしたちを神のエコノミーの栄光的な目標としてのからだの実際にもたらしめます——エペソ 1:22-23. 参照、啓 21:10-11。
- D. 唯一の務めは神の唯一の証しのためであり、神の唯一の証し、すなわちキリストのからだの実際は、地方召会において実際化されます——出 25:22. 38:21. 啓 1:2, 9. 参照、エペソ 4:4. ヨハネ 16:13。
- E. I コリント第 12 章で描写されているからだは、地方召会が持つべき証しであり、からだの証しです。今日の地方召会は、キリストのからだの実際を表現する証しでなければなりません—— 14-18, 21 節。
- F. 召会は一の証しのために存在しています。わたしたちが「地方召会」に言及するとき、わたしたちの強調点は「地方」ではなく召会にあります。召会が所有している命は、一の命です——ヨハネ 17:11, 21, 23. 啓 1:10-12。
- G. キリストのからだの実際の証しは、神の最終の回復です。その回復とは、キリストがわたしたちのすべてであることの回復、キリストのからだの一回復、キリストのからだのすべての肢体の機能の回復です——エペソ 1:17. 3:16-21. 4:1-6, 16。
- IV. わたしたちの内側の主は、わたしたちの魂の荒野にある幕屋の召会生活から、わたしたちの霊にある良き地の実際としてのキリストを伴う宮の召会生活へと前進することを切望しています。宮の召会生活の実際に入るために、わたしたちは契約の箱と幕屋の歴史を見なければなりません——ヘブル6:1前半. ヨシュア3:14-17. 申8:7-9. エペソ2:21-22. コロサイ1:12. 2:6-7 :
- A. 契約の箱が予表しているのは、三一の神の臨在としてのキリストが、彼の民と共に彼のエコノミーを遂行して、地上に彼の王国を建て上げるとのことです——マタイ 1:23。
- B. その歴史の第一段階において、契約の箱は幕屋の中心また内容でした。この事は、キリストが召会の中心また内容であることを表徴しています。契約の箱が幕屋のビジョンの中で最初に述べられている項目であるという事実が示しているのは、キリストが召会の中で首位を占めており、わたしたちは「彼の中へと」命において成長し込み、「彼の中から」命において機能するということです——出 25:10. 40:21. コロサイ 1:17 後半, 18 後半. エペソ 4:15-16。
- C. イスラエルの墮落のゆえに、契約の箱はペリシテ人によって奪われて幕屋から分離され、幕屋は実際のない空の器として残されました——サムエル上 4:11—6:1 :
1. 墮落したイスラエルは愚かでした。なぜなら、彼らは直接、神に信頼せず、むしろ神が定めた制度に信頼したからです——ローマ 2:28-29。
 2. 彼らの状況において、彼らは悔い改め、徹底的な罪の告白をし、彼らの偶像から神に立ち返るべきでした。そして、彼らは神が彼らに何を行なってもらいたいこ

とに関して神に尋ね求めるべきでした。しかしながら、彼らには神の願いや神の永遠のエコノミーに対して心がなく、彼らは契約の箱の行動を通して経験した過去の勝利に基づいて、彼らの迷信によって契約の箱に信頼しました。

3. 契約の箱を持ち出すことは、神の臨在を持ち出すことでした。契約の箱の行動は、神の具体化としてのキリストの中での地上における神の行動の絵でした。イスラエルがペリシテ人と戦っていたとき、神には行動する意図はありませんでした。
4. イスラエルの子たちには、神のエコノミーに対する考えや関心はありませんでした。彼らが契約の箱を持ち出したことは、自分の安全、平安、安息、利益のために神を不法に用い、さらには彼に強いて彼らと一緒に出て行かせたことを示しました。原則において、わたしたちは神のエコノミーを考慮することなく、自分の繁栄のために祈るときはいつも、同じ事を行ないます。わたしたちは神を不法に用いるのではなく、神の心にしがたって、また神のエコノミーのために、祈り、生活し、人となるべきです。人の必要が神の証しに置き換わるときはいつも、墮落があります——列王上 8:48。
5. 彼らは墮落して、神を極みまで怒らせ、神は彼らを離れました。最終的に、契約の箱がイスラエルを救ったのではなく、契約の箱そのものが奪われました。「契約の箱がない」ことは、「キリストがない」ことであり、「キリストがない」ことは、「イカボデ」がいることを意味します。すなわち、「栄光がない」ことを意味します——サムエル上 4:21-22, 11 前半, 13 前半. 参照、コロサイ 1:27-29。

V. イスラエルの墮落のただ中で、神はサムエルを興しました。彼の中には神の心が複製されており、彼は神と神の権益と利益だけに関心を持つ人でした。神はサムエルを興してダビデを得、そしてダビデを通してソロモンを得て、彼の宮を建造しました——サムエル上 1:27-28. 2:30. 3:1-4, 9-10 :

- A. サムエルは神のエコノミーの成就のために絶対に神にささげられたナジル人でした。彼は自発的に自分をささげて、神に形式的に仕えている者たちを置き換えました—— 1:11, 28 前半。
- B. サムエルは神の代わりに忠信に行動する祭司でした。彼は地上における神聖な行政のために王を任命し立てさせました—— 2:35。
- C. サムエルは神によって立てられた預言者でした。彼は祭司として自分が任命した王たちを支え、神の言葉を語って、古く古びた祭司職による神の言葉の教えを置き換えました—— 3:20。
- D. サムエルは、神によって立てられた士師でした。彼は神の行政上の管理を遂行し、古い祭司職による民の裁きを置き換えました—— 7:15-17。
- E. サムエルは祈りの人でした。彼は、神の選民のため、イスラエルの子たちのために祈って、彼らが神の道にとどまるように、神と一になるように、諸国民の偶像の罠に陥らないように、そして、神をエベネゼルとして享受するようにと祈りました。それは、神の選民に関する神のみこころの願いが成就するためでした—— 12:23-24. 7:3-14. 8:6. 15:11 後半。

VI. 契約の箱と幕屋の歴史は、召会の歴史を予表しています :

- A. その歴史の第一段階において、召会はキリストの表現であり、キリストは召会の内容でした。これは正常な状態です——出 40:21。

- B. その第二段階において、召会は墮落して、キリストの実際と臨在を失い、内側の実際の無い空の器となりました——啓 3:20。
- C. 契約の箱はペリシテ人から回復され、まずキリアテ・ヤリムでアビナダブの家にもたらされ、そこに二十年とどまり(サムエル上 6:2—7:2)、次にガテ人オベデ・エドムにもたらされて、そこに三か月とどまりました(サムエル下 6:10-12)。第二世紀に始まって、多くの「オベデ・エドムたち」が起こされました。彼らは主の臨在(契約の箱)を持っていましたが、キリストの表現としての正常な召会生活を持っていませんでした。
- D. ダビデは契約の箱をオベデ・エドムの家から、エルサレムの最上の場所であるシオンの山にある彼自身の町に自ら用意した天幕へと運びました(サムエル下 6:12-19. 歴代上 15:1 — 16:1)。これは進歩した状態でしたが、契約の箱はなおも不正常的な場所にありました。なぜなら、契約の箱はまだ幕屋に戻されていなかったからです。このような状況は、他の信者たちが、ダビデのように、神の權益を顧みて、召会生活を実行しようとしたが、それは彼ら自身の選択にしたがってであり、神の啓示にしたがってではなかったことを啓示しています。これらの信者たちはキリストを持っていましたが、召会生活の不正常的な実行(エルサレムにおけるダビデの天幕)と共に持っていました——参照、列王上 3:3-15. 歴代下 1:10。
- E. 最終的に、ソロモンがエルサレムで宮の建造を完成させた後、契約の箱は宮の至聖所の中へと運び込まれました。今日の主の回復の中で、主は働いてわたしたちを宮の召会生活としてのキリストのからだの実際の中へともたし、至聖所としてのわたしたちの霊の中にある団体の生活を送らせ、拡大され拡張された表現を得ようとしておられます——列王上 8:11, 48. エペソ 2:21-22。